

# 小畑誠名古屋工業大学学長インタビュー

名古屋工業大学（名古屋市昭和区）の学長に小畑誠氏が就任した。少子化の中で大学経営を安定させることが大きな課題だが、工学系国立大学としてトップクラスの外部資金、女子学生数を誇り、教育研究でも様々な展開を見せ始めている。「心で工学」を合言葉として、人の心に響くモノづくりが大切と教育理念を語る小畑新学長に抱負を聞いた。

（聞き手は塚本隆・本誌編集長）

## 女子学生をさらに増やし、教育研究の手法を工夫、分野融合も

—学長ご就任の心境をお聞かせください。

**小畑誠学長** 非常に伝統のある大学ですので、大きな責任を感じています。就任してまだ日が浅く、実感がそろそろ湧いてきたところかなと思っています。

—教職員にはどのような訓示をされましたか。

**小畑学長** 本学が置かれた教育研究環境に触れ、これからなすべきことを話しました。全体としては高い意識を持ってほしいということですね。ご存じのように18歳人口が減っていく中、これまでと同じことをやっていたらだめで、我々の強いところをどんどん伸ばしていかなければなりません。強いところは産学連携などにより地元へ貢献することと、外部資金・競争的資金をたくさん導入することで大学経営を安定させることですね。

—抱負、任期中の具体的な目標をお話してください。

**小畑学長** 4年間で何ができるか考えてみたのですが、身近なところではDX（デジタルトランスフォーメーション）を確実に進めたいと思います。大学の先生たちは多忙ですが、DXによって生産性を上げ、時間をうまく使えるようになりますからね。それと18歳人口減少に備えて財務体質の強化です。単科の工業大学としては全体予算の3割強を占めるなど外部資金が多いほうの大学としてうまくやっていますが、さらに強化したいです。予算構成ではほかに4割が国からの運営費交付金で3割ほどが学生の納付金です。

—現在の学生数は。

**小畑学長** 学部が4000人弱、大学院が約1500人ですから、ほぼ6000人規模です。

—合言葉は「心で工学」と仰っていますね。真



意を教えてください。

**小畑学長** 工学はモノづくりですが、何のために作るかということ、人のためですよ。作るモノの向こう側には必ず人がいます。人のために、というならば人の心が理解できなければだめでしょう、ということです。こういうモノなら人は喜ぶだろう、こう使ったらいいのではと人を思う心が大事で、それを抜きにして作ってはだめですよ。すこし違いますが、研究にしても面白いと思って進めるのが大事なわけで、これも極めて人間的なことだと言えます。

—貴学の歴史、伝統の中で、発展の礎をどうとらえていますか。

**小畑学長** 大学として大きなことは新制大学になったことですが、この時の清水勤二学長が「実学」を重んじ、いわば産学連携に力を入れてきたことは現在の本学の姿に通じるものがあると思っています。